

POS 型医療の構築

責任者名：今村 佳樹(口腔診断学 教授)

学期：前期

対象学年：5 年

授業形式等：演習

◆担当教員

今村 佳樹(口腔診断学 教授)

中島 一郎(医療人間科学 教授)

本吉 満(歯科矯正学 教授)

紙本 篤(総合歯科学 准教授)

岡田 明子(口腔診断学 准教授)

野間 昇(口腔診断学 准教授)

篠崎 貴弘(口腔診断学 専任講師)

澤田 久仁彦(歯科放射線学 専任講師)

馬谷原 琴枝(歯科矯正学 准教授)

高津 匡樹(歯科補綴学 I 准教授)

大山 哲生(歯科補綴学 II 専任講師)

浦田 健太郎(歯科補綴学 I 助教)

野川 博史(歯科補綴学 III 助教)

安田 裕康(歯科補綴学 II 助教)

◆一般目標 (GIO)

Problem Oriented System (POS) に則った医療情報の収集、診断、治療方針の考え方を習得するために、患者の有する問題を患者単位で全人的・包括的に把握し、整理し、その問題解決の対策としての治療方針を立てる道程を理解する。

◆到達目標 (SBO s)

- ① POS の概念に基づいた医療面接、口腔内外診査、検査オーダーを行うことができる。
- ② 医療面接、診査、検査を通して得られた情報から、患者さんが有する問題点を列挙することができる。
- ③ 患者さんが有する個々の問題点を、個別に評価し、診断することができる。
- ④ 患者さんが有する個々の問題点に対する対応（治療法）を述べることができる。
- ⑤ POS の概念に基づき、個々の問題点について治療の優先順位を説明できる。
- ⑥ 包括的な治療方針を立てることができる。
- ⑦ 治療内容について、患者さんに説明を行い、インフォームドコンセントを得ることができる。

◆評価方法

POS 型医療の定期試験によって判定する (80%)。平常試験を行う (20%)。平常試験の内容は、次回の講義でフィードバック (解説) を行う。講義の欠席は、定期試験の成績から減点とする。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
今村 佳樹	水曜日 17:00-18:00 口腔診断学講座研究室		要予約

◆授業の方法

プロブレムオリエンテッドシステム（POS: 問題志向型診療システム）について、講義を通して理解を深める。POS 型医療の構築の講義は、資料を配布してその資料を基に進めてゆきます。皆さんが診療参加型実習で用いる初診患者の POS 型実習診療録（POR）に基づいて講義を行うので、十分に予習、復習を行うように心がけること。配布資料（模擬患者データ）とビデオ視聴を通して医療面接、口腔内外診査、画像診査、診断、治療立案までを学修する。また、後半の講義では、補綴治療における初診患者の診かたについて学修する。

テストは、定期試験と平常試験を行う。定期試験はすべての講義内容を対象とし、定期試験期間に行う。平常試験は、講義の枠 1 時間を用いて、指定された期間に行われた講義を対象に行う。定期試験ならびに平常試験は、記述式、多肢選択方式のいずれかで実施するので、いずれの出題形式にも対応できるようにしておくこと。

【実務経験】（今村佳樹）歯科医師としての経験は 35 年以上であり、そのうち 30 年以上は初診患者の診察と診断、治療に携わってきた経験から、患者中心の医療面接、診査診断、治療方針の立案に関して十分な経験に立脚した指導が可能である。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
プリント			配布	
pdf ファイル			WEB 共有	

◆DP・CP

[DP-2] コンピテンス：世界の現状を理解し、説明する力

コンピテンシー：国際社会の現状と背景を理解し、地域社会における医療・保健・福祉の役割が説明できる。

[DP-4] コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

[DP-5] コンピテンス：挑戦力

コンピテンシー：新たな課題の解決策を見い出すために、基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けることができる。

[DP-8] コンピテンス：省察力

コンピテンシー：プロフェッショナルとして生涯にわたり、振り返りを通じて基礎・臨床・社会歯科領域において自らを高めることができる。

[CP-1] 歯科医学と医療倫理の基礎的知識を修得し、社会人としての品格と医療人になるための自覚を養成する。

[CP-2] 国内外の医療・保健・福祉の現状を理解し、基礎・臨床・社会医学の知識を基に、国際社会で活躍できる基本的能力を育成する。

[CP-3] 幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

[CP-4] 歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

[CP-6] 他者の意見を尊重し、明確な意思疎通のもと、円滑な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を養成する。

[CP-7] 歯科医師の責務を自覚して、責任あるリーダーシップを発揮し、患者を中心としたチーム医療における適切なコミュニケーション能力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

POS型医療では、初診から終診まで一連の流れをと計画して診療に当たるので、4年次までに習った各疾患の病態をしっかり復習しておくこと。

◆準備学習時間

授業の資料の多くは、事前に配布資料によって共有するので、授業時間の半分相当を充てて予習あるいは復習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

すべての臨床系教科

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		5.15	5	1. POS とは何か 1) なぜ POS が必要か?	<ul style="list-style-type: none"> Problem Oriented System (POS) の目的とするところを述べるができる。 POS と Disease Oriented System (DOS) との違いを明確に述べるができる。 診療参加型実習での POS の意義を説明できる。 	今村 佳樹	A-1-1) 医の倫理と生命倫理
2		5.15	6	1. POS とは何か 2) POR の構成	<ul style="list-style-type: none"> Problem Oriented Record (POR) の構造を説明できる。 POS における診療の流れを説明できる。 医療における POR の意義を説明できる。 情報収集の基本的な記載方法を述べるができる。 	中島 一郎	E-1-1) 診察の基本
3		5.15	7	2. POS における医療面接 1) 問診表ならびに紹介状の情報収集 2) 主訴と現病歴の評価	<ul style="list-style-type: none"> 問診表ならびに紹介状の情報を整理して把握できる。 患者の主訴を正しく把握できる。 主訴に関する病歴を正しく評価できる。 	今村 佳樹	E-1-1) 診察の基本

4		5.22	5	2. POS における 医療面接 3) 既往歴と家族 歴, 生活歴の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既往歴, 家族歴, 生活歴を正しく捉えることができる。 ・ 主訴の治療に影響を与える歯科 的既往歴を把握することができる。 ・ 歯科治療を行う上で問題となる 全身既往歴を聴取できる。 ・ 患者の口腔症状, 全身症状に影 響を与える家族歴, 生活歴を聴取す ることができる。 	今村 佳樹	E-1-1) 診察の 基本
5		5.22	6	3. POS における 診査 1) 口腔外診査所見 から何を考えるか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体幹および四肢に現れる主 要な徴候や病態を把握することがで きる。 ・ 体幹, 上肢および下肢の診 察ができる。 ・ 頭部・顔面の所見について 診査ができる。 ・ 特に顔面の所見について は, 歯科疾患と関連の深い所見につ いて詳細に診査することができる。 	篠崎 貴弘	E-1-1) 診察の 基本
6		5.22	7	3. POS における 診査 2) 口腔外診査所見 から何を考えるか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔外診査において各種症 候群の特徴を述べるができる。 	今村 佳樹	E-1-1) 診察の 基本
7		5.29	5	3. POS における 診査 3) 口腔内診査 (歯 質・歯髄・歯周所 見) から何を考え るか	<ul style="list-style-type: none"> ・ う蝕について診査ができ る。 ・ 打診を行うことができる。 ・ 温度診を行うことができ る。 ・ 歯髄電気診を行うことがで きる。 ・ 骨植, 動揺の診査を行うこ とができる。 ・ 歯牙の植立状態と咬合につ いて診査を行うことができる。 ・ 歯周組織について診査を行 うことができる。 	篠崎 貴弘	E-1-1) 診察の 基本
8		5.29	6	3. POS における	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舌, 口唇, 頬粘膜, 口腔 	篠崎 貴弘	E-1-1) 診察の

				診査 4) 口腔内診査（口腔粘膜と軟組織所見）から何を考えるか	底，口蓋，咽頭の問題点を視診により指摘できる。 ・ 口唇，舌，頬，咽頭の運動についての機能的な問題点を診査により指摘できる。 ・ 唾液腺の診査ならびに口腔乾燥の診査を行うことができる。 ・ 感覚検査から問題点を指摘できる。		基本
9		5.29	7	4. POS における検査 1) 血液検査でわかること，わからないこと	・ 歯科治療を行う上で必要な検査項目を把握する。 ・ 血液検査（血算，生化学など）のデータ解析ができる。 ・ 頻繁にみられる合併症の特徴的なデータを読みとることができる。	岡田 明子	E-1-1) 診察の基本
10		6.5	5	4. POS における検査 2) 画像検査でわかること，わからないこと	・ 症状を訴える患者の主訴に結びつくエックス線写真を得る撮影法が選択できる。 ・ 初診時に撮影したエックス線写真から患者の主訴に結びつく所見を抽出することができる。	澤田 久仁彦	E-1-2) 画像検査を用いた診断
12		6.5	6	5. POS における評価 1) 全身症状の評価（予備能の評価）	・ 持参資料から評価のポイントを挙げることができる。 ・ 歯科治療を行う上で，患者のリスクを判断するために何が必要かを述べることができる。 ・ 患者のリスク評価のために行うべき初診時診査（口腔外診査）を述べることができる。	今村 佳樹	E-1-1) 診察の基本
11		6.5	7	5. POS における評価 2) 心身医学的評価	・ 心理学的評価法の種類を説明することができる。 ・ 医療面接から得られた心理的問題点を挙げることができる。	篠崎 貴弘	E-1-1) 診察の基本
13		6.12	7	6. POR の作成 1) 問題点のリストアップ	・ 主訴に関わる問題点を明示できる。 ・ 主訴以外の愁訴を挙げることができる。	岡田 明子	E-1-1) 診察の基本

					<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療面接から得られた問題点を挙げるができる。 ・ 診査・検査から得られた問題点を挙げるができる。 ・ 歯科治療を行う上での全身的な問題点を挙げるができる。 		
14		6.12	5	6. POR の作成 2) 個々の問題点に対する診断 3) 治療方針の決定・インフォームドコンセント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の問題点に対する診断を挙げるができる。 ・ 一次診断の意義を述べるができる。 ・ 個々の診断に対して治療方針を説明することができる。 ・ インフォームドコンセントについて理解し、説明することができる。 	岡田 明子	E-1-1) 診察の基本
15		6.12	6	6. POR の作成 4) 紹介状、照会状の書き方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 治療に際して必要な項目について他科主治医の意見を求めることができる。 ・ 紹介状、照会状に必要な記載項目を理解して説明することができる。 ・ 他科に対して必要な治療を依頼することができる。 	岡田 明子	E-1-1) 診察の基本
16		6.19	7	6. POR の作成 5) ビデオ症例の解説	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初診時の問診事項を説明できる。 ・ 初診時に必要な診査内容と診査方法を説明できる。 ・ 全身（肉体的・精神的）・局所状態（顎顔面・口腔内）を述べるができる。 ・ 口腔内状態を正確に記録することができる。 ・ 得られた情報から問題点を整理できる。 ・ 各種疾患の診断名を導くことができる。 ・ 記載した診療録の不備な点を修正できる。 ・ 修正内容を正しく説明でき 	篠崎 貴弘	E-1-1) 診察の基本

					る。		
17		6.19	5	6. POR の作成 6) チャートの記入・解説 (1)症例解説 (2)チャート記入内容のチェック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提示されたビデオ症例より、全身・局所状態を述べるができる。 ・ 口腔内状態を的確に述べるができる。 ・ POR 法によるカルテ記載の基本を説明できる。 ・ ビデオによる症例の解説を受け、患者の問題点（全身的・局所的）を整理するために必要な情報を導くことができる。 ・ 得られた情報から問題点を整理できる。 ・ 患者の問題点をカルテに POR 法で記載できる。 ・ カルテ記載の不備な点を修正し、説明できる。 	篠崎 貴弘	E-1-1) 診察の基本
18		6.19	6	6. POR の作成 7) 叙述的記録 (SOAP) 8) 経過記録, 一覧表	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビデオ症例におけるクリニカルパスウェイを通して、SOAP による記録を整理することができる。 ・ あらたに提示された症例について、実際に SOAP による記録ができる。 ・ SOAP による記録の利点を述べるができる。 ・ 経過記録のまとめとして一覧表の作成法を理解して、その応用と利点を述べるができる。 	紙本 篤	E-1-1) 診察の基本
19		6.26	5	7. POS 型臨床実習の実際 1) クリニカルパスウェイ	<ul style="list-style-type: none"> ・ クリニカルパスの概念を説明できる。 ・ 初期治療計画と実際の治療における治療計画の変更について学ぶ。 	紙本 篤	E-1-1) 診察の基本
20		6.26	6	7. POS 型臨床実習の実際 2) 平常試験 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ POS 型医療を症例に応用できる知識を有する。 ・ 平常試験の内容について、フィードバックを通して必要な知識を修得する。 	野間 昇	E-1-1) 診察の基本

21		6.26	7	7. POS 型臨床実習の実際 3) 平常試験 1 の解説、授業アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ POS 型医療を症例に応用できる知識を有する。 ・ 平常試験の内容について、フィードバックを通して必要な知識を修得する。 	野間 昇	E-1-1) 診察の基本
22		7.3	5	8. POS 型医療の応用と臨床推論	<ul style="list-style-type: none"> ・ POS 型医療を症例に応用するため、適切な臨床推論プロセスを経て临床上の問題を解決する能力を養うことの重要性とその方策を説明できる。 	本吉 満 高津 匡樹	A-2 医学知識と問題対応能力
23		7.3	6	9. POS 型医療の応用 1) 総義歯①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総義歯補綴治療において、医療面接、基本的診察および検査結果の情報を系統立て、的確な診断と治療法を選択することができる。 	浦田 健太郎	A-2 医学知識と問題対応能力
24		7.3	7	9. POS 型医療の応用 1) 総義歯②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 治療方針に基づいて問題を解決するため、的確な診療の手順、使用する器具や器材、および患者管理について述べるができる。 	浦田 健太郎	A-2 医学知識と問題対応能力
25		7.10	5	9. POS 型医療の応用 2) 部分床義歯①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欠損補綴の注意点について知識を再確認する。 	安田 裕康	A-2 医学知識と問題対応能力
26		7.10	6	9. POS 型医療の応用 2) 部分床義歯②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部分床義歯による補綴治療の前処置の必要性について知識を再確認する。 	安田 裕康	A-2 医学知識と問題対応能力
27		7.10	7	9. POS 型医療の応用 3) 顎顔面補綴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顎補綴症例の診断および治療のクリニカルパスウェイを理解する。 ・ 手術後の形態と機能の変化について説明できる。 ・ 術後治療から最終補綴物装着までの過程を説明できる。 ・ 顎義歯の目的を説明できる。 ・ 顎顔面補綴の概要を説明できる。 	大山 哲生	A-2 医学知識と問題対応能力

28		7.17	5	9. POS型医療の 応用 4)クラウン・ブリ ッジ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯冠補綴, 少数歯欠損症例の診察と診断について説明できる。 ・ 必要となる検査法の選択, 治療計画の立案について説明できる。 	野川 博史	A-2 医学知識 と問題対応能力
29		7.17	6	9. POS型医療の 応用 5)クラウン・ブリ ッジ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 治療計画を左右する因子を述べることができる。 ・ 基本的な治療の進め方を説明できる。 	野川 博史	A-2 医学知識 と問題対応能力
31		7.17	7	画像診断 1) 顎骨・口腔領 域の疾患 I	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顎骨・口腔領域に発生する嚢胞および腫瘍の画像診断について理解する。 	澤田 久仁 彦	A-2 医学知識 と問題対応能力

担当グループ一覧表

グループ名	教員コード	教員名
POS 型医療の応用担当	1239	大山 哲生
	2704	野川 博史
	2725	浦田 健太郎
	2969	安田 裕康